

南下古墳群位置図



上空からの南下古墳群

南下古墳群（古墳公園）・文化財センター（文化財事務所）へのアクセスマップ



・関越自動車道駒寄スマート I.C から約 5 分



（お問い合わせ先）
吉岡町文化財センター（文化財事務所）

【所在地】〒370-3604
群馬県北群馬郡吉岡町南下 1322 番地 12

【電話】0279-54-9443

【FAX】0279-25-7765

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
祝日の翌日、年末年始

【開館時間】午前 9:00 ～午後 4:00

みなみしもこぶんぐん 南下古墳群



（南下古墳群を構成する古墳の中で最も大きい円墳 A号墳）

南下古墳群の概要

南下古墳群は吉岡町大字南下に所在する 6 世紀後半から 7 世紀末までに築かれた A 号墳から F 号墳までの 6 基の古墳の総称です。6 基の内 A 号墳から E 号墳までの 5 基の古墳は現在でも石室が残っており、中でも A 号墳と E 号墳の石室内には石材加工の際に引かれた赤色作業線（朱線）が多数残っています。また A 号墳の玄室壁面には漆喰が塗られた跡が残っています。朱線や漆喰の存在は前橋市総社町の宝塔山古墳にも見られますが、その他には全国的に見ても奈良県明日香村の高松塚古墳など数基しかありません。宝塔山古墳と A 号墳・E 号墳の築造には同一技術集団が関わった可能性があります。

南下古墳群には古墳の築造に関する貴重な情報が数多く残されており、学術的に高い価値があると位置付けられています。

◎お願い

現在、石室は安全管理のため立ち入りを制限しています。

A号墳 —7世紀後半—

A号墳は二段築成の円墳と推定され、墳丘規模は径約30 m、高さは南面で約8 mです。石室は^{まじりしまりくみつみ}截石切組積で、^{せんどう}羨道と^{げんしつ}玄室の境には見事に加工された^{げんもん}玄門があります。壁面には石材加工時の赤色作業線（朱線）や、漆喰の跡が残っています。



A号墳全景



A号墳石室 漆喰の跡



A号墳石室



A号墳石室 朱線の跡

B号墳 —7世紀中頃—

B号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約22 m、高さは南面で約5.2 mです。石室は自然石の^{らんせきづみ}乱石積で、玄門や奥壁の一部に截石を用いています。壁石に粘土を詰めた跡が認められます。床面規模に対して天井が高く、畿内の影響を受けていると考えられています。



B号墳全景



B号墳石室

C号墳 —6世紀後半—

C号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約15 m、高さは東面で約4 mです。石室は自然石の乱石積で、東に開口しています。本古墳群の中では最も古い時期に位置付けられます。



C号墳全景



C号墳石室

D号墳 —7世紀前半—

D号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約13 m、高さは南面で約3 mです。石室は自然石の乱石積で、羨道と玄室の境に2ないし3段に積んだ玄門があります。



D号墳全景



D号墳石室

E号墳 —7世紀末—

E号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約17 m、高さは約2.8 mです。石室は精緻な截石切組積で、石材加工技術はA号墳よりさらに進んだものです。各壁面には石材加工の際に引いた赤色作業線（朱線）が数多く残っています。



E号墳全景



E号墳石室



E号墳石室 朱線の跡

F号墳 年代不明—

F号墳は円墳と推定され、墳丘規模は径約21 m、高さは南面で約4 mです。石室は道路工事の際、巨石を除去した話があり現在は確認されていません。



F号墳全景